



タキイ交配  
ダイコン

# 「関白SP」



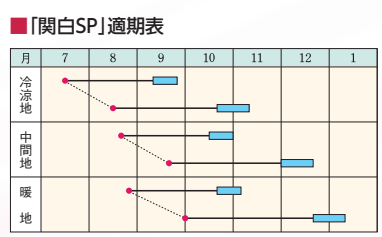
タキイ研究農場  
たなかひろし  
田中 寛

- ポイント**
- ✓ 作りやすい
  - ✓ 播種期幅が広い
  - ✓ 食味がよい
  - ✓ 加工・業務用にも向く



## 播種期幅が広く、作りやすい 食味よし、太りよしの 淡緑首品種

ダイコン「関白SP」栽培メモ	
播種適期	冷涼地：7月下旬～8月上旬 中間地：8月下旬～9月中旬 暖地：8月下旬～9月下旬
耐病性	萎黄病
肥料の目安(10a)	元肥NPKすべて10～15kg (8月まき元肥は3～5割減→NPKすべて5～10kg) 追肥：チッソ成分4～6kg
耕種基準	6,000～7,000株/10a



ダイコン「関白」は、栽培が容易かつ食味にすぐれるため、人気品種として長年ご利用いただいています。今回は近年の気象条件を考慮し、早まき可能な秋どりという「関白」の特性はそのままに、生育をそろえ、栽培を安定させることを目的に改良を加えた「関白SP」をご紹介します。

## 栽培ポイント

況に応じて最終間引き後に追肥

### 2 作期によって 施肥量を考慮する

元肥主体の施肥とし、生育状況に応じて最終間引き後に追肥を行います。

生育初期は根の伸長時期にあたり、この時期の生育の良否が品質、収量に大きく影響します。

### 3 中耕管理が生育の良否を決める

生育初期は根の伸長時期にあたり、この時期の生育の良否が品質、収量に大きく影響します。集中豪雨などの過湿条件にあつと十分に根を張ることができず、本来の生育ができない場合があります。管理機などを利用

し、タイミングよく畝間を何度か中耕することで生育が回復します。品種特性を發揮するうえではこの中耕管理は重要な管理作業といえます。

### 4 保水、排水性のよい 土づくりが要

栽培期間中に乾燥や過湿を繰り返すと横縞症や根の変形などの原因になります。また、過湿によって土中の酸素が不足すると根の生育が著しく劣るので、水はけの悪い圃場では高畝栽培としましょう。

堆肥などの有機物を施用し、保水、排水性のよい土づくりを行うことが良品を生産するうえで重要です。

### 1 適期播種、適期収穫 基本を守るべし

本種は播種期幅の広い品種ですが、良品生産においては無理な早まきをせず、本種の早太り性を生かして適期に播種し、良品多収をねらいます。また収穫が遅れると適正サイズでの出荷が困難になるので適期収穫を心掛けるとともに計画的な播種を行います。中間地の場合、播種適期は8月下旬～9月中旬となります。

控えめとします。一方で低温期栽培での肥料切れは生育の遅れやス入りの発生にもつながるので緩効性肥料を使用するなど肥効の持続を考慮した施肥設計としましょう。

### ▷ 作りやすい 肥大性にすぐれる

肥大性にすぐれる淡緑首品種です。草勢旺盛で吸肥力が強く、安定した栽培性を示します。また、萎黄病の耐病性にもすぐれ、安心して栽培できます。

### ▷ 播種期幅が広い

中間地～暖地においては11～12月どりが基本になりますが、8月まき10月どりにおいても栽培が可能な耐暑性を持ちます。一方、葉は濃緑で生育旺盛であり、根部の抽根も比較的少ないため耐寒性にもすぐれます。

### ▷ 食味がよい

肉質は緻密で特におでん用など煮食用ダイコンとしての品質にすぐれます。

### ▷ 加工・業務用にも向く

淡緑首の品種であり、低温時期の栽培条件下において問題となる緑肉になりにくい品種です。加工用としては特に漬物用途に適します。



↑←  
4品種とも漬物や刺身のつまなど、加工・業務用の幅広い用途に適している。写真は「冬神楽」(左)、「健白」(上)。

## 「健白」「秋神楽」「冬神楽」との使い分け

夏～初秋どりの「健白」、年内どりの「秋神楽」、冬どりの「冬神楽」は草姿がコンパクトで肥沃地での栽培や密植栽培に向く加工・業務向けの白～淡緑首品種のシリーズです。

一方で今回ご紹介した「関白SP」は草勢旺盛で馬力があり、肥料抜けが早いやせ地での栽培に適しています。また、早太りで肥大のよい品種を好まれる方におすすめてです。秋冬作においては、上記3品種の播種期をおおむねカバーできる作期幅の広い品種でもあり、その栽培性の高さを生かし初心者からプロまで幅広く使っていただける品種です。

ダイコン特性表 (秋冬どり比較)

品種名	耐病性(萎黄病)	耐寒性	晩索性	標準根径(cm)	標準根長(cm)	首色	煮食用肉質
関白SP	◎	○	◎	8.0	34	白～淡緑	極良
健白	○	○	◎	8.0	38	白～淡緑	良
秋神楽	○	△	○	8.0	38	白～淡緑	良
冬神楽	◎	◎	◎	8.0	38	白～淡緑	良